

縄文の衣

（喜びを伝える風と時間の祝祭）

光を浴び 風を受け 縄文の衣が舞う
そのときそこは
宇宙に変わる

パフォーマンス



2017.

9.16

16:30開演

茅野市立永明小学校 体育館

茅野の歴史と、そこに生きる人々の願いと想いを、
一枚の布の可能性に託して綴る、
現在を生きる人々による未来への讃歌。

構成・演出 時広真吾(衣装デザイナー)



縄文から現在、未来を繋ぐ、茅野の風土と人々の想い。衣装デザイナー・時広真吾と市民が「衣」をテーマに表現するパフォーマンス。小学校の体育館が、劇的な時空間に変わります。

時広真吾の構成・演出により、「縄文アートプロジェクト」(2015年・茅野市民館)において「縄文のうた」の踊りを手掛けた小笠原大輔、市民創作劇「となりの縄文人」にて女神の舞を披露した永田桃子、茅野で踊りの楽しさを広めている木元梨枝によるダンスを交え、公募による市民出演者と、衣装制作の市民サポーターがともにパフォーマンスを創作し、上演します。

2017年9月16日(土)16:30開演 16:00開場・受付開始

茅野市立永明小学校 体育館

料金 無料

定員 100名 (受付順にご入場いただきます)

構成・演出 時広真吾

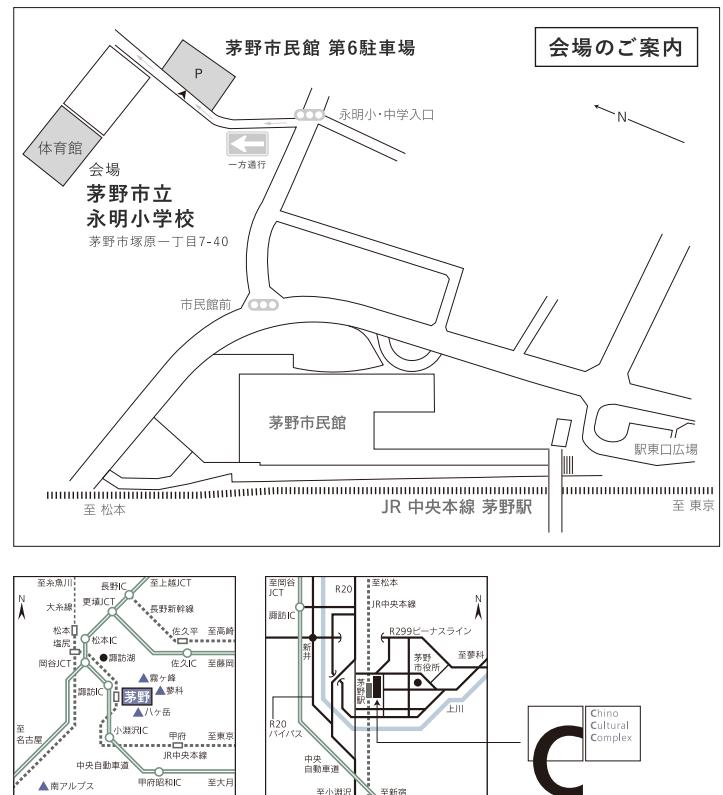
振付・ダンス

小笠原大輔、永田桃子、木元梨枝

出演・衣装制作 市民参加者

ご鑑賞のお客様へご案内

パフォーマンスをご鑑賞されるお客様は、会場の永明小学校体育館へ直接お越しください。開場(16:00)になりましたら、会場前で受け付けいたします。定員は100名、受付順にご入場いただきます。永明小学校は茅野市民館から徒歩約5分です。お車でお越しの際は永明小学校の道向かいにある茅野市民館第6駐車場をご利用ください。



お問合せ 茅野市民館

〒391-0002 茅野市塚原一丁目1番1号
TEL 0266-82-8222
9:00~22:00 火曜休館
<http://www.chinoshiminkan.jp/jomon/>



平成29年度茅野市民館主催事業「あそびからクリエイティブ」

主催:茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

助成:平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業、一般財団法人 地域創造

後援:茅野市、茅野市教育委員会、富士見町教育委員会、原村教育委員会、信濃毎日新聞社、長野日報社、市民新聞

グループ(7紙)、月刊ぶらざ、FM長野、LCV、諏訪地方観光連盟、信州諏訪農業協同組合、茅野商工会議所



時広真吾 衣装デザイナー

山口県生まれ。ジャーナリストから stylistへ、1991年にモータルトのオペラ「魔笛」より、舞台衣装デザイン開始。独自のスタイルで創造された衣装たちは「風が纏う衣装」「挑発する衣装」「格闘する衣装」「文学的抒情」など様々な名前が、一流アーティストや演出家から与えられている。衣装展およびワークショップはアジア5か国(韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム)を始めとして、国内でも各地で開催されている。シェイクスピアの衣装でヨーロッパ5か国のシェイクスピアフェスティバルから招聘される。西島数博演出・振付「ドラマティック古事記」や横内正主演「リア王」ほか、各地での地元市民による新しい「祭り」のプロジェクトを依頼されるなど、衣装デザイナーの域を超えて多方面で活躍している。これまで、東儀秀樹、松井誠、真矢みき、安寿ミラ、宮川博、荻野慶子や太鼓芸能団「鼓童」、東京ノーザイ、レパートリーシアターなどに衣装提供。プロ団体によって構成する「四つ花の会」、2010年より各地の地元のアーティストたちがコラボする「美の種」プロジェクト等を各地でプロデュース。海外ではオールラウンド・アーティストと称され、デザイナー、写真家、詩人、パフォーマーをこなす。作品集もこれまで8冊上梓している。



小笠原大輔

珍妙振付家・多重構造からくりコント作家

岡谷市出身。多重構造からくりコント&ダンスグループ「撫肩GUYDANCE」

(ナデガタ ガイダンス)主宰。幼少期よりお笑い研究に没頭し、学生時代にやむを得ずコンテンポラリーダンスを始め、頓智の利いた独自のお笑いダンス(=トンチンポラリー・ダンス)を確立する。神奈川県内の高校創作舞踏部を指導し、全国大会等で文部科学大臣賞を含む多くの上位受賞に導いている。最近では、長野県茅野市「縄文の踊り」の振付や「第30回国民文化祭かごしま」(肝付町)でのオープニングアクトの振付を担当する等、市民参加型ダンスの普及にも努めている。また(公社)日本女子体育連盟、日本教育大学協会主催の実技講習会をはじめ、全国各地で笑いとダンスのワークショップを行っている。ソニー学園湘北短期大学保育学科講師。



永田桃子

茨城県出身。1994年9月8日生まれ。10歳より新体操をはじめるが、身体表現の方面に興味が芽生え、筑波大学に入学後ダンスへと転向。2014年より梅田宏明主宰 SomaticFieldProjectに加入、多数の作品に出演する。舞台活動をはじめ写真作品の被写体など、幅広く芸術分野に携わり、自身の作品創作にも意欲的に取り組んでいる。



木元梨枝

愛知県生まれ、茅野市在住。幼少期より見いったり、聴きいたり、なりきったり本能のままに育つ。2009年、茅野市民館でたまたま観たコンテンポラリーダンスに触発され、踊るようになる。身体表現のワークショップに数多く参加し、市民館のサポーター活動を通して表現の幅を広げている。最近では「縄文おどり部」や「おでかけ隊」としても地域でかけ活動している。「ひとものでいいところ 寄り部ーヨリブー」部長。ダンス発表作品「おしまいの一と」(2014年 茅野市美術館 PLAY with Soundscape—音風景の可能性)。